



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所
(一財)日本友愛協会

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188
FAX:03-5684-3186
E-mail:yuai@yuaiyoukai.com
http://yuaiyoukai.com

発行人：川手正一郎
編集人：

隔月1回 10日発行

年会費
2,000円

陝西省麟遊県・遼寧省朝陽市北票市二カ所で植林活動

北京にて友愛奨学金授与式開催

「雨天友愛」「寒天友愛」を体験 北京理工大学の学生と交歓

第二十八次友愛植林訪中は、四月八日(土)より四月十三日(木)の日程で実施された。今回の訪中は、先に入賞者の決まった、友愛感想文コンテスト「私にとって友愛とは」の授賞式も併せて開催する予定で、陝西省宝鶏市麟遊県・遼寧省朝陽市北票市の二カ所の植林現場の他北京にも滞在し表彰式を実施するという過密な日程で、訪中団一行は中国国内を三三〇〇キロ移動、東京・北京間を合わせると五〇〇〇キロを超える旅をしたことになる。

雨の植林現場、強風の植林現場それぞれに物語が生まれ、充実の訪中内容であった。

第二十八次植林訪問記

理事長 鳩山由紀夫

一路西安に
継続は力なり。そう信じて今年も友愛協会は中国で植林事業を行った。

二〇〇〇年から小淵基金を活用した植林事業を行っているが、その総面積は既に文京区、千代田区、豊島区を併せた面積を超えている。気の長い事業ではあるが、植林地の自然生態が大きく好転していると伺っている。嬉しいことである。

四月八日に私ども夫婦と川手常務理事、羽中田事務局長の四名で羽田を出発。北京で中国国際青年交流センターの洪桂梅副主任と羊強振科長と合流して再会を懐かしみ、昼食の後シルクロードの都西安に飛んだ。

科学的農場見学
翌朝は八時過ぎにバスで宝鶏市麟遊県に向かう。生憎の雨である。二時間半くらいと言われていたが、着いたのは十二時近く。中国はとにかく広い。

麟遊県ではまず太陽光を利用して、野菜などを大量に巨大な温室で栽培している企業を訪れた。太陽パネルの設置には政府が補助金を出しているようだが、コンピュータ制御されている温室の規模にはびっくり。

現在日本ではソーラーシエアリングが画期的なシステムとして注目を浴びている。これは畑や水田の上に適当な間隔で太陽パネルを敷く方法であり、作物を育てながら発電できるシステムである。しかも作物は収穫量がより多くなると言うから不思議である。こちらのほうがはるかに安価で効果的であり、麟遊県のシステムは高度であるがそれだけ無駄が多いように感じた。

私はそこで「雨天友愛」の話をした。青天の時より雨天の時に集まってくれる友ほど真の友であると言うことを話した。川手理事は、若者たちに向かって「元氣、やる気、本気」で事を成せと激励した。その後、昨年に引き続き同じ山の斜面で植林を行った。なんとか一〇本植えることができた。みんな運動靴やズボンが泥まみれになってしまったので、西安のホテルに帰る途中に近くのおばあちゃんの庭先に寄って泥を落としたが、それでもバスの中は泥だらけとなった。それにしても去年は舗装も無かった山道が、一年後にはしっかりと舗装された道路になっていったのは驚いた。中国の道路や高速鉄道などのインフラ整備のスピードには恐

雨天の友愛

麟遊県の植林事業の起工式は昨年と同じ場所で行われた。

雨の中、遅れた私たちを子どもたちやボランティアの方々が見守っていてくださった。有難かった。

中国国内を三三〇〇キロメートル移動。桜の花咲く古都から、凍土がや

第二十八次植林訪中及び友愛奨学金授与式訪中日程

四月八日(土) 羽田・北京經由・西安/北京・西安約一〇〇〇キロ・空路

四月九日(日) 西安・麟遊県/往復約三〇〇キロ・マイクログラス

四月十日(月) 西安・瀋陽/一七〇〇キロ・空路

四月十一日(火) 瀋陽・北票市/約三〇〇キロ・マイクログラス

四月十二日(水) 北票市・北京/約五〇〇キロ空路

四月十三日(木) 北京・羽田

中国国内移動距離 約三三〇〇キロメートル

☆日本友愛協会が担当した植林面積は文京区・千代田区・豊島区の面積に匹敵

☆日中緑化交流基金が実施した植林総面積は、約六万七千ヘクタール。東京二三三区を上回る



鳩山由紀夫理事長は、雨の中、植林活動に参加した学生達一人一人と握手をして労をねぎらった



一緒に植林活動をした子供達は、名残を惜しんで、帰りの車に乗り込む最後まで見送ってくれた



北京理工大学奨学金授与式で挨拶する鳩山由紀夫理事長。感想文の内容、質の高さを誉め称えた

友愛時評

◆フランス大統領選の決選投票で中道・独立系のマクロン氏が極右・国民戦線のマリヌ・ルペン候補を破って勝利した。3月のオランダ総選挙に続き、大陸ヨーロッパでは極右勢力の躍進に歯止めがかかったとも見られている。◆とはい

え、昨年の英国のEU離脱国民投票や米国大統領選が激震を与えたように、世界中でポピュリズムの伸長が危惧されている状況に変わりはなく、これから総選挙を控えている英国やドイツでも、反EUを掲げ既成政党を激しく批判する勢力が支持率を伸ばしている。◆ポピュリズムとは「大衆迎合主義」と否定的なニュアンスを含めて訳されたりもするが、民主主義の下で数の多い「大衆」の支持獲得を目指すのはむしろ当然ではある。だが「エリート」や「移民」といった敵と「自分たち」を峻別し、あるいは実現可能性を考慮せず場当たり的な言辭や政策を打ち出す手法は、政治の根幹を蝕む毒を含み、◆「小泉劇場」「橋下劇場」「小池劇場」……とメディアや大衆受けを狙った政治手法は我々も見慣れて久しいと思うが、筆者には意外なこと(に)安倍長期政権が続く日本はポピュリズムの猛威から逃れている数少ない例外である。確かに、極端な主張を掲げる新興勢力が既成政党を脅かすほどに伸長することはなく、自民党の一党優位体制に復古したようにも見えないのだから。◆とはいえ、グローバル市場経済の席卷による格差拡大という背景は日本にも共通している。移民が少なく国内に明確な敵を見出すのが難しい特殊な状況で、格差社会による不満のマグマがどこに向かうのか、注視が必要である。(ヒゲ)



広い農場の中では、様々な野菜が育てられている。瑞々しい深緑の葉が、これからの農業を示唆



陕西省宝鸡市麟游県にて、新たに開発した科学農場の規模を示すパネルの前で、その広さに驚き



どこまでも続くシイタケのホダ木には、小さなシイタケが顔をだしていた



大雁塔の前で、日本でもお馴染みの三蔵法師の寺。様々な資料が収められている



ぬかるみのため近くまで行かれなかったが、山の中腹に建立された立派な記念碑



「元気、やる気、本気」が大切と、元気いっぱいの中で、子どもたちに、川手正一郎常務理事



風二毛負けズ

遼寧省朝陽市北票市マイクが倒れてしまうほどの強い風が吹き続けている中、子供達はきちんと整列して話を聞いていた。雨天の友愛のみならず「寒天の友愛」と理事長が感激



雨二毛負けズ

陕西省宝鸡市麟游県集まったボランティアの子どもたち、村人たちと山の上まで行って植林した。下りてきたときは足はどろんこ、顔も土だらけだった大勢の方々が、植林活動に協力してくださっている



強風の中、土を起こし苗を植える。バケツ一杯の水が、瞬間に大地に吸い込まれていく



遼寧省朝陽市北票市の植林現場遙かに続く尾根に、元気な苗が植えられている。大きく育て!



北票市の記念碑。付近を梅の林にし、観光誘致を目指すため東屋を設置。新しい形の記念碑である



約八〇センチほどの苗を植えていく。土地が乾燥しているので根にはカバーをかけたまま植える

ろしさを感ずるくらいである。 広い中国を北上 翌日は西安から遼寧省の瀋陽への移動日。午前中は西安の大雁塔を訪れた。 唐の時代に玄奘三蔵法師がインドから持ち帰った経典や仏像などを納めるために高宗に申し出て建立した七層の塔である。多くの観光客が訪れていた。 午後の便で瀋陽に向かい、瀋陽では以前も泊ま

せていただいた友誼賓館で遼寧省の方々と夕食会を行った。昨年太極拳のような健康体操、八段錦を教えたくれた共青団遼寧省委員会の趙紅魏書記にお会いし、懐かしさが込み上げた。 瀋陽から北票市の現場へ 翌十一日は再びバスで四時間ほどかけて北票市に着し、植林事業の起工式に出席した。 植林地は北票市の中でも田舎のほうなので、小さな

町を通り過ぎる時、町の人は外に出て不思議そうに私どものバスを眺めていた。 起工式の場所には小学生や地元のおじさんおばさんたちが既にたくさん集まっていた。 気温が低くしかも風速十メートルはあるかと思うほどの風が吹いており、体感温度は凍りつくように寒かった。それでも子どもたちはずっとなだやかな姿勢で私たちの挨拶を聞いてくれてい

た。感心した。「雨天友愛」だけでなく、「寒天友愛」もあることを肌で感じた次第である。 この地は既に殆ど植林を済ませてあったので、私どもは儀礼的に数本を植えたのみであった。 集まった子どもたちや村

館を訪ねた。北票市や遼寧省からは三、四億年前の恐竜の化石がたくさん発見されているのである。中でも魚の化石は無数と言つてよいほど掘り出されている。お土産に魚の化石を頂戴したが、空港の売店でも売っていたのには驚いた。 夜は朝陽市政府の張東群副市長主催の宴を楽しませていただいた。張副市長からほとぼるするオーラは彼の将来に期待を抱かせるものだった。北票市は朝陽市の中にある小さな市なのである。

イルペンを差し上げた。博物館と空港と 起工式の後、北票市博物館を訪ねた。北票市や遼寧省からは三、四億年前の恐

北京での表彰式 十二日も早起きして八時半の便で朝陽市から北京へと向かった。かつて竹下首相の時代に日中友好の証として建てた二十一世紀飯店で、国際青年交流センターの馬興民主任が主催する昼食会の後、北京理工大学の日本語作文コンテストの優秀者に贈る友愛奨学金の表彰式を行った。 みなさんの日本語学力はなかなかたいしたものので、最優秀の女の子はまだ大学

の化石がたくさん発見されているのである。中でも魚の化石は無数と言つてよいほど掘り出されている。お土産に魚の化石を頂戴したが、空港の売店でも売っていたのには驚いた。 夜は朝陽市政府の張東群副市長主催の宴を楽しませていただいた。張副市長からほとぼるするオーラは彼の将来に期待を抱かせるものだった。北票市は朝陽市の中にある小さな市なのである。



北京理工大学日本語学科の友愛奨学金コンクールの入賞者と記念撮影。今回は、一位が二年生、男子学生が入賞し、話題の多い授与式となった



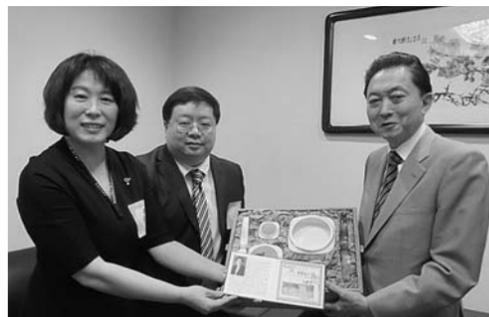
二位の学生には、川手常務理事から賞状が授与された。受け取る学生も、授与する川手常務理事も笑顔に溢れている



友愛担当の中国国際青年交流中心の皆さんと。様々な能力を持つ優秀な人材が揃っている



一位入賞の楊嶺さんには、鳩山由紀夫理事長より賞状が授与された緊張した面持ちの楊さん



北京理工大学の周教授(中央)と郭教授(左端)より、人間国宝作品の筆洗、筆架などが贈られた



エヤップの創設者ブルーノ元会長の墓に詣った。この墓地には、クイデンホーフ・ミッコの墓もある



職業訓練所にて、エヤップの難民への取り組みについて詳しいお話を伺った



CTBTTOのセルボ事務局長を囲んで記念撮影。職員の方々が熱心に説明してくださった



オーストリア外務省にて、今事業のエヤップの担当者ペトラさん(左から二人目)も一緒に

今回の派遣は、研修を主に学生間の交流を目指すもので、早稲田大学谷藤悦史教授、東北大学戸澤英典教授、慶應義塾大学井上浩義教授より推薦を受けた男女それぞれ三名づつ計六名で派遣団を結成した。

現在エヤップはオーストリアのみならず、ヨーロッパ諸国の課題の一つである「難民受入」に力を入れており、今回派遣の学生達は、その取り組みをつぶさに見学させていただいた。

エヤップは、難民の方々暮らししていく為に必要な、語学学習所、職業訓練職業訓練所にて、エヤップの難民への取り組みについて詳しいお話を伺った

エヤップの難民への取り組みは、島国日本の私たちに問題提起してくれた

国際交流事業の一環として行われている派遣事業は、新たな実施の形態を見出した。二月十七日から二月二十六日までの十日間、日本友愛協会と友好関係を結んでいるオーストリア勤労青年連盟(エヤップ)へ、六名の大学生を派遣した。六名の大学生は、国連のCTBTTO(包括的核実験禁止条約機関連準備委員会)を訪問するなど、充実した研修内容をすべてこなし、予定通り帰国した。

次号(七月号)では、各人の研修体験記を掲載予定ですが、先駆けて写真での報告記事を掲載します。

職業訓練所にて、生活の基盤が安定するよう職業訓練を行い、就職も斡旋している

老人ホーム訪問 皆さんに折り紙を披露。子どもたちも一緒に折り紙を楽しんだ

二年生だった。彼らのような優秀な人材が将来日中友好のために活躍することを心から願う。

最後の夜は全青連副主席の汪鴻雁女士のお招きの夕食会を楽しんだ。

彼女自身は南アに行くための予防注射を打ってしまったので飲めないとのことであったが、わざわざ自己

身の茅台(マオタイ)酒を持ってきて下さった。彼女はなかなか聡明な方である。トランプ大統領は中国がもつと圧力を北朝鮮にかけなければいけないと言っていると言ったら、これ以上中国が北に圧力をかけたら、北朝鮮からこちらにミサイルが飛んできてしまうとの返答があった。

午後便でみな元気に羽田に帰り着いたが、帰国の直前に、とても多忙な李小林対外友好協会会長との面談が叶い、お昼をご馳走になりながら旧交を温め合うことができて幸せだった。

彼女の「私は共同通信に怒っています。私の訪米を習近平主席の訪米の地ならしとでたらめを書いたために、私は訪米できなかつた」との冒頭の言葉に驚いたが、さもありなんと、私の総理時代とだぶらせて聞いていた。実り多き訪中であつた。

李小林会長と再会 十三日の朝、事務所が引っ越しの最中だという「中国国際青年交流中心」にお伺いし、友愛の事業の手助けをして下さっているスタッフの皆さんとお会いした。元氣溢れる皆さんに、この方々なら大丈夫と納得した次第だ。

李小林会長と旧交を温める。元気でエネルギーな李会長は、多忙な時間を割いてくださった

遼寧省朝陽市北票市 遠く湖が見えている。その水を使ってでも、何とか木々が育って欲しい

李小林会長と再会 十三日の朝、事務所が引っ越しの最中だという「中国国際青年交流中心」にお伺いし、友愛の事業の手助けをして下さっているスタッフの皆さんとお会いした。元氣溢れる皆さんに、この方々なら大丈夫と納得した次第だ。

午後便でみな元気に羽田に帰り着いたが、帰国の直前に、とても多忙な李小林対外友好協会会長との面談が叶い、お昼をご馳走になりながら旧交を温め合うことができて幸せだった。

彼女の「私は共同通信に怒っています。私の訪米を習近平主席の訪米の地ならしとでたらめを書いたために、私は訪米できなかつた」との冒頭の言葉に驚いたが、さもありなんと、私の総理時代とだぶらせて聞いていた。実り多き訪中であつた。

李小林会長と再会 十三日の朝、事務所が引っ越しの最中だという「中国国際青年交流中心」にお伺いし、友愛の事業の手助けをして下さっているスタッフの皆さんとお会いした。元氣溢れる皆さんに、この方々なら大丈夫と納得した次第だ。

午後便でみな元気に羽田に帰り着いたが、帰国の直前に、とても多忙な李小林対外友好協会会長との面談が叶い、お昼をご馳走になりながら旧交を温め合うことができて幸せだった。

彼女の「私は共同通信に怒っています。私の訪米を習近平主席の訪米の地ならしとでたらめを書いたために、私は訪米できなかつた」との冒頭の言葉に驚いたが、さもありなんと、私の総理時代とだぶらせて聞いていた。実り多き訪中であつた。

李小林会長と再会 十三日の朝、事務所が引っ越しの最中だという「中国国際青年交流中心」にお伺いし、友愛の事業の手助けをして下さっているスタッフの皆さんとお会いした。元氣溢れる皆さんに、この方々なら大丈夫と納得した次第だ。

午後便でみな元気に羽田に帰り着いたが、帰国の直前に、とても多忙な李小林対外友好協会会長との面談が叶い、お昼をご馳走になりながら旧交を温め合うことができて幸せだった。

彼女の「私は共同通信に怒っています。私の訪米を習近平主席の訪米の地ならしとでたらめを書いたために、私は訪米できなかつた」との冒頭の言葉に驚いたが、さもありなんと、私の総理時代とだぶらせて聞いていた。実り多き訪中であつた。

友愛山荘 宿泊予約受付中!!

緑あふれる 6月 紅葉が見事な11月 オススメです!!



- ♪ 新幹線駅から徒歩7分
- ♪ 大型バスも駐車できる
- ♪ 団体割引は5名から適用
- ♪ グランドピアノ他ピアノ3台設置
- ♪ 視聴覚設備完備「友愛ホール」併設
- ♪ ミニコンサートにもぴったり!!



施設詳細はHPで!! スマホで検索もできます!!
<http://yuaiyoukai.com>

お問合せ
 空室状況はこちらへ
 お電話ください

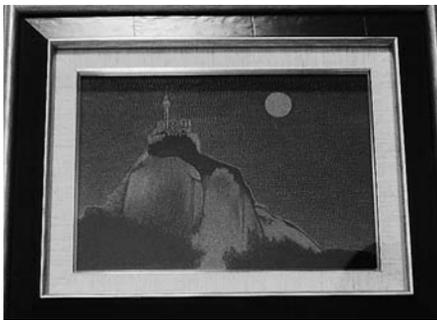
一般財団法人日本友愛協会
 TEL 03-5684-3188
 FAX 03-5684-3186

友愛山荘ギャラリー

友愛山荘には、国際交流活動の際頂いた様々な美術品が飾られています。色や質感をお伝えできないのは残念です。是非山荘で実物を鑑賞し、お楽しみください。他にも色々飾られています。ミャンマー学生連合会から贈られた愛の象徴。一晩離れていたことを悲しんで五〇〇年泣いたという厦門市同安区の青年連合会から戴いた額。十八金の金線で厦門の景色が描かれている。



本当の石を薄く削って作った石版に描かれた夜の景色。月明かりに浮かぶ景勝が幻想的である



一番新顔の、何と翡翠を彫った馬の額。馬は縁起物だとのこと。陝西省青年連合会から贈られた



厦門市同安区の青年連合会から戴いた額。十八金の金線で厦門の景色が描かれている。



ミャンマー学生連合会から贈られた金色の龍。ビーズとスパンコールを使い輝いている。幸運の印



厦門市青年連合会から頂いた、金色の龍の額。金箔を施しているので色褪せない

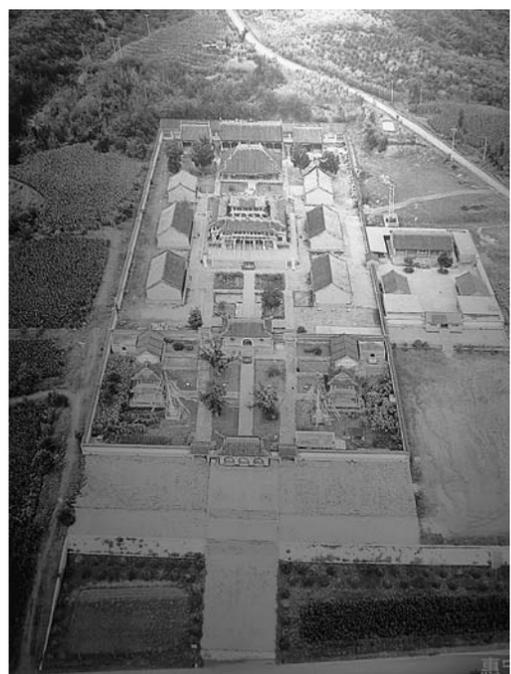
中国の二匹馬

今回の第二十八次訪中に同行した際見かけた、印象的な二枚の写真を御紹介します。

一つは左の立体模型(ジオラマ)です。遼寧省朝陽市北票市の古代博物館に展示されていました。発掘して出現した古い寺の全体図です。皆さんどこかで見覚えがありませんか? そうです、東大寺や唐招提寺に見られる「伽藍」と同じ様式を示しています。

この伽藍様式が日本にも伝わり、日本の寺、特に奈良時代の寺に用いられたのでしよう。中国との古い古い交流の歴史が、ハッキリと解る歴史の証人です。懐かしさすら覚え、感動しました。

次は、下の写真。言わずと知れたカタツムリ(でんでん虫)です。こちらは陝西省宝鸡市麟遊県に作られた、太陽光発電



約二〇〇年前のものと思われる寺院の跡が発見され、博物館に立体模型が展示されています。どこか懐かしい、仏教の歴史の源を一つにする日本と中国の交流の証ではないでしょうか

時事川柳 服部迪夫 作

- 東日本大震災 六年目課題ばかりが遡上する
- 研究開始 引き波の恐怖を知った第一章
- 被災地格差 復興の足音どこか空回り
- 侍ジャパン アメリカで刃こぼれおこすお侍
- 賢者の声 二刀流プロはそんなに甘くない
- 水泳ニッポン 王国の兆しがみえる競泳陣
- 隣国のお家騒動 日本に推理作家が増える訳
- 達観 恒彦の枯れた演技を忘れな

機関紙『友愛』にご投稿ください!

機関紙『友愛』編集部では、皆様のご投稿をお待ちいたしております。ご自身の活動報告、地域の名物紹介、季節のお便り等、何でも結構です。写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。
 締切り：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。
 要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。
 写真：紙焼き(カラー・白黒)・デジカメデータどちらでも。

新緑の心

◆新緑は人の心を潤し、幸せと平和をもたらす。そしていつも思うことは、中国各地での植林がどうなっているのか。気になるところです。四月も宝鶏市と北票市に行ったのですが、無事育ってくればと念願しています。それにしても昨年七月の既植林地視察では、広州チワン族自治区の来賓県と厦門で、目から鱗の素晴らしい体験をしました。自分では全く思い出せない現実の緑に思わず感動し、中国の関係者と大地に改めて感謝した次第です。植林時の荒地の写真をしっかりと確かめ、ようやく納得したことは今も鮮明に覚えております。そしてこの緑が日本と中国の懸橋となり、心を繋ぐ絆となる、そんな思いがし、嬉しくなりました。今年の植林も、十年後の感動に結びつくよう祈念します。(K)

◆今年は桜を待ちわびながら、気温の低下で開花が遅れ、満開の時を待たず中国へ出張となりました。帰国時には、既に東京の桜は終わっているだろうと、未練たっぷりに出掛けました。ところが、そんな思いを天が解ってくれたのか、麟遊県の植林地の山肌に、桜が沢山咲いていたのです。彼岸桜でしょうか山桜でしょうか、遠く雨に霞む姿は、美しいものでした。感激です。加えて、帰国した翌日は強い風の日で、盛りを過ぎた桜の花吹雪を堪能。人間万事塞翁が馬。(も)